北区の部屋だより 第96号

2017年7月

刊行物登録番号 28-2-097

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 29 年 7 月発行

北区こぼれ話 第95回

須賀線の電気機関車に付けられていた鐘はどこに？

昭和４６年（1971）まで、王子駅付近から豊島五丁目の日産化学の間に、国鉄の貨物線がありました。須賀線と言う名前でした。最近までは、北王子線というＪＲ貨物の路線もありました。北王子線は、王子駅付近から、王子五丁目の日本製紙物流内の北王子駅までの貨物線で、紙を積んだ列車が、田端の操車場との間を往復していました。一方、須賀線は、王子三丁目で北王子線と分かれ、王子消防署付近で北本通りを横断し、豊島の紀州通りをとおって、日産化学の工場内へ続いていました。戦前は、今の王子六丁目にあった陸軍の工場にも線路が引き込まれていました。

さて、この須賀線ですが、戦後しばらくの間、道路と線路の間に柵もなく、踏切に警報機もないという状態でした（但し、北本通りには有人踏切があり、ロープで自動車や都電の通行をさえぎっていました）。当時は、須賀線に限らず、柵の無い線路も、警報機の無い踏切も珍しくありませんでした。しかし、周辺の住民からは、危険だから何とかしてくれと苦情がきます。そこで考え出されたのが、電気機関車の運転台側面の床下に鐘を付けて、音を周囲に響かせながら走るという方法でした。なお、その後、柵が造られたり、踏切に警報機が付いたり、安全対策が進んでいく様子は、新聞の地方版などで確認することができます。

ＪＲ東日本田端運転所の慰霊塔
（先端にＥＢ10の鐘が付いている）

須賀線を走っていた電気機関車は、ＥＢ10という形式です。その１号機が、北区を離れ、現在、府中市の「郷土の森公園」内の交通遊園に保存されています。国鉄から府中市へ貸与されたものです。実際に見に行ってみると、残念ながら、あの鐘は付いていませんでした。鐘は、いったいどこに行ったのかと、疑問を持ったまま数年の時が過ぎました。

実は、ＥＢ10の鐘は、北区内にあったのです。しかも、一般の道路から見える場所にです。「灯台下暗し」とはこのことです。もともと、ＥＢ10が所属していたのは、国鉄の田端機関区です。後に尾久機関区と合併し、今は田端運転所という名称になっています。最近、図書館の用事で田端運転所を訪ねたところ、ＥＢ10の鐘が、田端運転所の慰霊塔に再利用されていることを御教示いただきました。偶然の対面に感動しつつ、撮影してきましたが、この慰霊塔は、田端運転所の門前の道路からも見ることもできます。御関心のある方は、ぜひ足を運ばれてはいかがでしょうか（みだりに鉄道用地に入ると罰されますので、敷地の外からご覧ください）。

府中市に保存されているＥＢ10

【地域資料専門員　黒川徳男】

今月の展示

お富士さん―北区の富士塚と富士信仰―

期間　６月23日（金）～7月26日（水）

場所　北区の部屋企画展示コーナー

富士山は、霊山として古来から人々の信仰を集めてきました。室町時代には登拝すると数々の災難から逃れることができると人々から信じられるようになり、富士山への参拝を通じた富士信仰が形成されます。また、信仰の拠りどころとして石や土を盛って富士塚が築かれ、それは現在でも各所に残っています。今回の展示では十条の富士塚を中心に、各地の「お富士さん」を紹介します。

平和図書コーナーを開設します！

北区では昭和 61 年（1986）に制定した平和都市宣言を記念し、今年度も８月１日(火)から５日(土)までを『平和祈念週間』として、北とぴあで平和を願うさまざまな催しを実施します。図書館でも『平和図書コーナー』を設けて、この取り組みに全館を挙げて参加を行っています。来館される皆さまが平和について考えるきっかけにしていただきたいと思います。

◆期間　　７月 28 日(金)～8 月 31 日(木) ※休館日を除く

◆場所　　「子ども向け平和図書コーナー」北区立図書館全館にて

「平和図書コーナー」中央・滝野川・赤羽図書館にて

※中央図書館では「北区の部屋」の地域資料専門員が選定した資料を、
１階入口正面柱周りの展示コーナーで展示します。

一度、読んでみませんか？

今月号の北区こぼれ話第 95 回に登場した、田端運転所に関する記念誌、「田端運転所 120 周年記念誌～機関車と共に～」を「北区の部屋」で閲覧することができます。この記念誌は、平成 28 年 12 月 1 日、田端運転所の前身にあたる「機関庫」が、田端駅構内に開設されてから 120 周年を迎えた記念に発行されました。関係者のみに配付された非売品の資料のため、黒川地域資料専門員が特別に譲りうけた貴重なものです。白黒の古い写真が数多く掲載されていて、多くの皆さんが懐かしく思われるのではないでしょうか？

北区の部屋だより 第97号

2017年8月

刊行物登録番号 26-2-057

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 29 年 8 月発行

北区こぼれ話 第96回

花火は禁止?!
江戸時代の北区域の村々

また暑い季節がやってまいりました。夏の風物詩といえばそれこそ数々ありますが、花火もその一つ。夏の夜空を舞う鮮やかな色彩の饗宴は、一時の涼を私たちにもたらしてくれます。鉄砲とともに火薬の調合方法が日本に伝来して以降、泰平の世となった江戸時代には、花火という文化は瞬く間に浸透し、江戸の夏を鮮やかに彩ったことは多くの方々の知るところでしょう。では、北区域の村の人々も同様に花火を楽しんだのでしょうか。実は、なかなかそういう訳にもいきませんでした。

文政２年（1819）８月朔日、武蔵国豊島郡下村で花火が上がりました。史料によれば、これは下村の子どもたちが寺社開帳の際に江戸市中へ出かけ、その折に一本、二本と買い集めたものだといいます。このことから、江戸の開帳には、下村の辺りからも参詣に訪れていたこと、さらには、その際に様々なものを江戸で購入し、村に持ち帰っていたことなどが知られます。ただ、花火を買っていたのが本当に子どもかどうかは微妙です。確かに江戸の町触をみると、花火が子どもの玩具であったことを窺わせる内容のものも見受けられますが、この下村の花火は「花火揚候」とあるように打ち上げ花火で、しかも、隣村である神谷村からも確認できるような規模のものでした。そして何より子どもの悪戯にしておいた方がいいとの判断から、敢えて子どもが買ってきたということにしたとも考えられるからです。

さて、話を戻しますと、これを知った鳥見役の田沢重太郎は、下村だけではなく岩淵宿・神谷村をも呼び出し事情聴取しました。岩淵宿や神谷村が呼び出された理由は、隣村にもかかわらず黙認し、これをすぐに役所へ届け出なかったことにあります。花火を上げたぐらいでまた大げさな･･･なんて思うかも知れませんが、これらの宿村を含め北区域の一帯は、将軍が鷹狩りを行う鷹場に含まれており、獲物となる小鳥の保護や生息環境の維持には細心の注意を払わなければなりませんでした。そのため、鷹場の村々が遵守しなければならない「鷹場法度」にも、花火を禁止する条目があります（「徳丸本村　安井家文書」）。にもかかわらず、勝手に花火を打ち上げた下村、それをすぐに届け出なかった岩淵宿・神谷村が呼び出されるのは、ある意味当然だといえるのです。これらの宿村は、田沢から「察斗」、すなわち厳しく叱りを受けることとなり、以後、取り締りを厳重にすることを確約する請書を提出し、今回の件は「御免」となるのでした。

江戸市中の花火は、防火の観点から様々な制約がありますが、郊外は郊外でまた別の理由で花火が禁止されるのです。鷹場制度は、慶応３年（1867）まで続きますので、北区域の村々で気兼ねなく花火が打ち上げられるようになるのは、明治時代に入ってからのことと考えていいでしょう。　　【地域資料専門員　保垣孝幸】

今月の展示

テーマ：戦中戦後の子どもたち
－区民・学校提供の写真から－

期　間：7月28日（金）～8月23日（水）

場　所：北区の部屋展示コーナー

第二次世界大戦の終結から数えて、72 年目の夏がめぐってきます。戦争の記憶が社会から薄れていく中、昭和の子どもたちの写真を展示いたします。戦争中の防空訓練や学童疎開、戦後の占領と復興。当時の子どもたちは、現在の日本から想像もできないような、苦難の時代をくぐり抜けてきました。その姿をご覧ください。

集団学童疎開のため上中里駅に集合した子どもたちと見送る親たち（滝野川小学校提供）

～地域資料専門員がお答えします～

「北区の部屋」には、地域資料専門員が在室しています。北区に関する素朴な疑問から専門的な質問まで、利用者の「なぜ？」にわかりやすくお答えしています。どうぞお気軽にお尋ねください。

※専門員は在室していない日があります。北区の部屋の「専門員の予定表」をご覧ください。

≪これまであったレファレンス（質問）の一例≫

Q 大晦日に「狐の行列」を行っていますが、その理由を教えてください。
Q むかし「北区公会堂」があったと思いますが、いつ閉館したのですか？
Q 昭和３０年前後の北区の駅や映画館などの風景写真はありますか？
Q 滝野川を流れていた谷田川が暗渠になったのはいつですか？　などなど…

平和図書コーナー開催中

北区では昭和 61 年（1986）に制定した平和都市宣言を記念し、今年度も８月１日(火)から５日(土)までを『平和祈念週間』として、北とぴあで平和を願うさまざまな催しを実施します。図書館でも『平和図書コーナー』を設けて、この取り組みに全館を挙げて参加を行っています。来館される皆さまが平和について考えるきっかけにしていただきたいと思います。

◆期間　7 月 28 日(金)～8 月 31 日(木) ※休館日を除く

◆場所　「子ども向け平和図書コーナー」北区立図書館全館にて

「平和図書コーナー」中央・滝野川・赤羽図書館にて

※中央図書館では「北区の部屋」の地域資料専門員が選定した資料を、１階入口正面柱周りの展示コーナーで展示します。

北区の部屋だより
第98号

2017年9月

刊行物登録番号 28-2-097

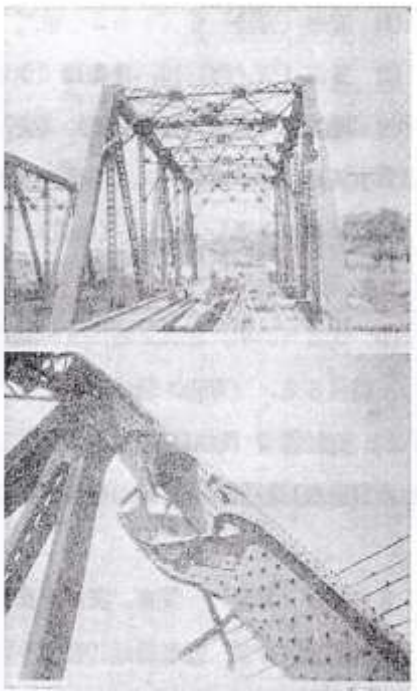
編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 29 年 9 月発行

北区こぼれ話 第97回

赤羽鉄橋の空襲被害
―今も残る被弾の痕跡(こんせき)―

昭和 20 年（1945）8 月 10 日、赤羽地区などで空襲がありました。『東京都戦災誌』（東京都、昭和 28 年）によれば「7 時 40 分空襲警報発令、10 時 50 分同解除、その間 9 時 40 分頃から 10 時 26 分頃に亘(わた)り、B29　100 機、P51　50 機ばかりの戦爆連合で東京に来襲し、爆弾攻撃を行った。被害は板橋、王子、足立、滝野川の各区内に亘(わた)った」とあります。投下されたのは、250 キロ爆弾・500 キロ爆弾・1 トン爆弾で、頑丈な建築物にも有効でした。

この赤羽の空襲では、国鉄の鉄橋が被弾しました。現在、赤羽―川口間には、複線橋が三本あります。東から西へ順番に、京浜東北線、東北本線、東北貨物線です。被弾したのは、一番西側の東北貨物線で、今では湘南新宿ラインが通っているところです。正確には、それは荒川に架けられた荒川橋りょうではなく、すぐ南の新河岸川橋りょうです。『国鉄の空襲被害記録』（国鉄施設局監修、国鉄の空襲被害記録刊行会編纂、集文社、昭和 51 年発行）には「赤羽―川口間新河岸川橋りょう被弾ヵ所」と題された写真が 3 枚掲載されています。そのうちの 2 枚を引用しますので、ご覧ください。この記事には「開通貨下線(かくだりせん)19 日 9 時 30 分」とありますから、東北貨物線の下り線が不通となり、復旧には約 10 日間を要したことになります（『国鉄の空襲被害記録』は北区の図書館に所蔵されていません）。



新河岸川橋梁の被弾箇所（『国鉄の空襲被害記録』155 頁より）

この被弾箇所は、現在でも確認することができます。ご覧になりたい方は、赤羽駅か北赤羽駅で電車を降りて、新河岸川に架けられた「中の橋」を渡りましょう。そして、土手上の道にあがり、川下へ歩いて行くと、鉄橋のすぐ下にたどり着きます。そこで、一番西側の橋をよく見ると、補修によりリベット（鋲）の頭が見えない部分があることに気がつくはずです。そこが、被弾箇所なのです。このように、70 年以上前の戦争の痕跡が、今も残っているのです。

現在も残る修理の跡

【地域資料専門員　黒川徳男】

今月の展示

テーマ：「北区の部屋」の作業室から

期　間：８月25日（金）～９月27日（水）

場　所：北区の部屋　企画展示コーナー

「北区のことなら何でもわかる!!」をコンセプトに活動している北区立中央図書館「北区の部屋」には、現在でも古文書など数多くの歴史資料が持ち込まれます。これを図書館の資料として誰でも利用できるようにと整理し、公開の準備を進めているところが「北区の部屋」の作業室です。今月の展示では「北区の部屋」で行われている作業について紹介するとともに、持ち込まれた資料の一端を一足早くお伝えします。

「えっ?!　こんなものならうちにもあるよ!!」という方。ぜひ「北区の部屋」にご相談ください。

公開歴史講座

滝野川・帝国種苗（しゅびょう）殖産（しょくさん）の昭和史

滝野川の種苗業者が共同で立ち上げた会社「帝国種苗殖産」。海外にまで販路を広げた有力企業でした。大正から昭和戦中期まで、その歩みをたどります。

◆**日時**：平成29年10月21日（土）午後２時～4時
◆**場所**：中央図書館３階ホール
◆**講師**：日本近代史研究家　黒川（くろかわ）徳男（のりお）氏
◆**定員**：50名（抽選、区内在住・在勤・在学、18歳以上の方）
◆**申込**：往復はがきで、お申し込みください。
往信面に①講座名、②郵便番号、③住所、④氏名（ふりがな）、⑤年齢、⑥電話番号を、返信面には申し込む方の①郵便番号、②住所、③氏名をご記入ください。
※ 視聴覚障害のある方は電話申し込み可。
※ 聴覚障害のある方はFAX申し込み可。
※ 手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。
◆**締切**：平成29年10月６日（金）（必着）
◆**宛先**：〒114-0033 北区十条台1-2-5　北区立中央図書館図書係
TEL：（5993）1125　　FAX：（5993）1044

地域の社史・産業団体史を収集しています!!

中央図書館と北区図書館活動区民の会・地域資料部会が協働で、北区で活動する会社や工場、団体などの発行する資料を北区の地域資料として収集しています。ぜひとも北区関連の社史や周年誌などのご寄贈をお願いいたします。

【問い合わせ先】
〒114-0033　東京都北区十条台1-2-5
北区立中央図書館（北区の部屋）
電話 03-5993-1125

北区の部屋だより 第99号

2017年10月

刊行物登録番号 28-2-097

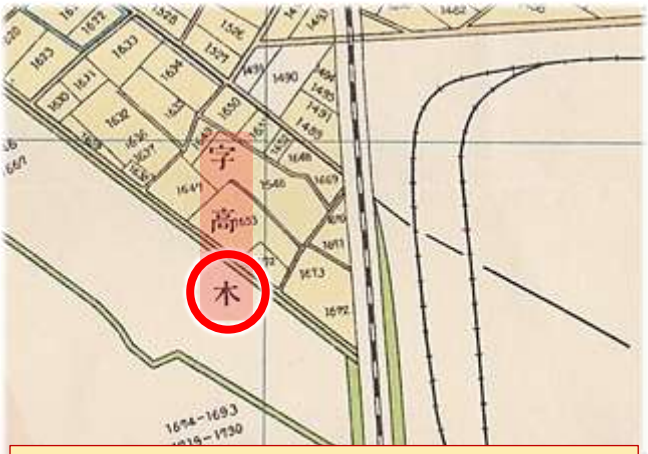
編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 29 年 10 月発行

北区こぼれ話 第98回

何故、間違って伝わったのか ～下十条村「高本」の場合～

これまで伝わっていた事象について、改めて資料を確認するとそれが間違っていたことが判明し、結果、正しい情報へと修正されることがよくあります。実際に自分で資料を確認することなく、誤った内容の本の記述をそのまま引用することで広まっていくことが多いのですが、かつて武蔵国豊島郡十条村（後の下十条村）にあった字「高本」が「高木」として伝わったのは、逆にちゃんと資料を確認した結果、間違って広まったという珍しい事例です。

現在の十条台 1 丁目や 2 丁目、上十条 2 丁目のあたりになりますが、かつての十条村には「高本」という地字がありました。江戸幕府が編纂した官撰地誌『新編武蔵風土記稿』の浄書稿本でも十条村の項に「高本」と記され、「タカモト」とふりがながありますので間違いありません。



「東京府北豊島郡王子町」（逓信協会、1911 年、部分）

ところが、これを活字にした資料集では「高木」と誤植されて出版されてしまいました。『大日本地誌大系新編武蔵風土記稿』(1957 年、雄山閣)を確認すると「高木」と記されており、その後もこの本は修正されぬまま版を重ねていきます。そして「高木」誤伝の最大の原因とも思われるのが明治 44 年(1911) に逓信協会が発行した「北豊島郡王子町全図」です。人文社から復刻版が出されており明治時代の地図として広く利用される地図ですが、ここにもはっきりと「字高木」の文字が確認でき、同地図に付されている「字名一覧」も「高木」となっています。これらの資料によって「高木」となっていったのです。

昭和 3 年(1928)に刊行された『王子町誌』では、地元の人々が「高本」と記していましたが、その後ちゃんと資料を確認したのでしょう、昭和 7 年(1932)の『王子区誌』では「高木」になってしまいました。さらに昭和 53 年(1978)に刊行された『北区の社会教育』175 号では「高木」と記すとともに、『王子町誌』の「高本」は校正ミスだとも記しています。

先に刊行された本の内容を鵜呑みにすることなく自ら資料を確認した結果、その資料が間違っていたことで誤った情報が伝わったという半分冗談のようなお話です。地図の記載を疑う、資料集の内容を自ら確認するなど、なかなか難しいところがありますが、実際、世の中に出回っている資料集にも誤植を含めて結構な数の間違いがあります。歴史に携わる者の立場からいえば、可能な限り原資料に近いかたちのもので確認することをお勧めします。

【地域資料専門員　保垣孝幸】

◆ 北区の部屋・今月の展示

●テーマ：北区アンダーグラウンド 地面の下に歴史あり

●期　間：平成 29 年 9 月 29 日（金）～10 月 25 日（水）

●場　所：「北区の部屋」企画展示コーナー

東十条の不発弾処理
（不発弾を釣り上げています）

アンダーグラウンド、略してアングラ。とは言っても、怪しげな展示ではありません。地面の下に焦点をあてると言う意味です。トンネル・地下鉄・埋蔵文化財から防空壕跡まで、地下にあるもの、あったものについて紹介し、北区の歴史を振り返ります。ぜひ、読書の合間に、お気軽にご覧ください。

浮間地区 荒川防災ステーションの地下格納庫
（コンクリートブロックの下が全て格納庫です）

◆ “「北区」が登場する本のリスト”、更新しました！

北区立図書館では、利用者の皆さまにご協力をいただき、“北区”に関する記述のある本をまとめた**“「北区」が登場する本のリスト”**を毎年作成しています。

今年も１０月１日にリストを更新（新しい情報には★印有）しました。リストは各図書館に配架され、ホームページでも公開していますので、ぜひご覧になってください。

また、北区の記述のある本には、背表紙に「 マーク」を貼り付けてあります。興味を持たれた方は本を手に取ってどこに北区が登場するか探してみてくださいね！

“「北区」が登場する本のリスト”の表紙

なお、“北区の記述がある本”の情報は、今後も引き続き募集いたします。

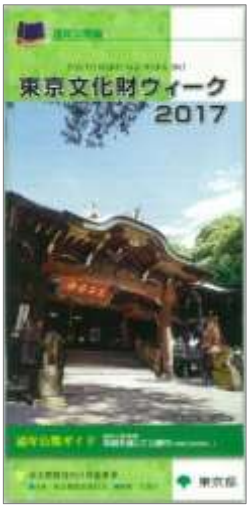
「このミステリー、滝野川警察署の刑事が主役だ！」

「このエッセイ、十条銀座のことがいっぱい書いてあるよ！」

…など、内容の中に何かしら“北区”が登場していた本を発見しましたら、各図書館のカウンター等に置かれている「北区が載っている本を教えてください。」用紙に詳細を記入し、図書館のスタッフへお渡しください。

皆さまからの情報、心よりお待ちしています！！

◆ “東京文化財ウィーク 2017”、今年も開催します！



東京文化財ウィーク 2017　左:通年公開ガイド／右:特別公開・企画事業ガイド

東京都教育委員会は、11 月 3 日（文化の日）を中心に都内全域の文化財の公開や様々な関連イベントを実施し、都民の皆さまに文化財を身近に感じて頂く機会を提供する「東京文化財ウィーク 2017」を今年度も開催します。

中央（北区の部屋）・滝野川・赤羽図書館でも、ガイドステーションとしてガイドブックの配布等に協力しています。北区の催し物や通年公開の資料情報等も掲載されていますので、それぞれの文化を感じに出かけてみませんか？

北区の部屋だより

祝 第100号 祝

2017年11月

刊行物登録番号 28-2-097

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 29 年 11 月発行

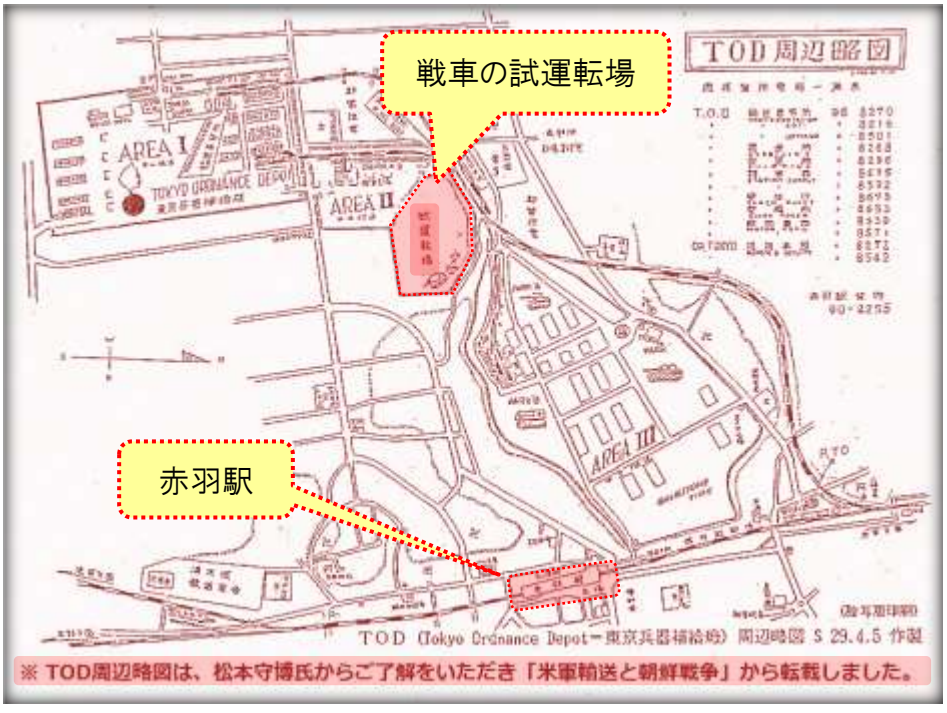
北区こぼれ話 第99回

占領軍の刀狩り

～廃棄された赤羽刀のゆくえ～

刀剣ブームの影響か、北区の部屋にも「赤羽刀」についての問い合わせが、しばしば寄せられます。赤羽刀とは、第二次世界大戦後、占領軍が民間から接収した刀剣類のことです。それらは、赤羽の TOD(米軍の東京兵器補給廠)に集められました。ゆえに、赤羽刀と呼ばれています。一部の刀は、占領軍将校の土産として海を渡りました。

接収された刀のうち、美術的価値の高い 5,500 本余りは、選別され東京国立博物館に保管されました。所有者が判明したものは返還されていきましたが、多くは博物館の収蔵庫に眠ったままになっていました。時代は下って、平成 7 年(1995）議員立法により「接収刀剣類の処理に関する法律」が成立し、所有者不明の 4,000 本を超える刀が、全国の公立博物館に無償譲与されました（『赤羽刀(接収刀剣類)』文化庁文化財部美術学芸課)。



これが、赤羽刀の歴史の概要です。その一方で、多くの刀が廃棄されました。いわゆる昭和刀(昭和に工場で製造された刀）などの類です。ちなみに、旧滝野川区にあった東京第一陸軍造兵廠滝野川工場でも、軍刀を製造していました。では、廃棄された刀は、どこへ行ったのでしょうか。海洋投棄されたと書いている書籍もあります。しかし、実は北区民にとって、とても身近な場所に廃棄された刀もあったのです。

元国鉄職員の松本守博氏の手記「米軍輸送と朝鮮戦争」(私家版)には、そのことについての記述があります。赤羽駅で米軍相手の渉外担当駅務掛(係)のお仕事をされ、RTO(米軍の鉄道運輸事務所)で TOD の貨物輸送の業務にも従事されていた方です。松本氏によれば、多くの刀が、TOD 第二地区に埋められたとのことです。「この地区の凹地に戦利品となった日本の戦車、装甲車などを埋め立て、さらに占領軍命令で豊太閤(豊臣秀吉)なみに全国の庶民から刀狩りをして集めた刀剣や猟銃も火焔放射器で焼却して埋め、戦車の試走場としていた」というのです。その場所は、現在の赤羽自然観察公園にあたります。米軍が去ったあと、自衛隊十条駐屯地赤羽地区としても使用されていました。現在、自然豊かな公園になっていますが、そこは、戦後日本の歴史を物語る場所でもあったのです。

【地域資料専門員　黒川徳男】

☆祝！第100号 !!☆

おかげさまで、「北区の部屋だより」は今月 100 号を迎えることができました。赤レンガ図書館開館と同時に新設された「北区の部屋」と、そこで働く地域資料専門員の活動及び北区に関する豊富な知識を利用者の皆さんに知ってもらおうと、平成 21 年 8 月に創刊されたのが「北区の部屋だより」でした。今回は創刊 100 号を記念し、改めて様々な顔を持つ「北区の部屋」についてご紹介いたします。

Q1:「北区の部屋」って何の部屋？

“北区”に関連する地域資料を集め、書籍や展示を通して北区のことをよく知らない人にはわかりやすく、既に詳しい人にはより深く知って頂けるよう、気軽に利用できて**“北区のことなら何でもわかる”**場所を目指した部屋です。

Q2:「地域資料」ってどんな資料？

「地域資料」とは**“郷土資料”**や**“行政資料”**のことで、地域の歴史、地理、文化、教育、行政、経済、自然など各分野の出版物と自治体の刊行物を指します。地域の範囲は自治体によって違いますが、北区立図書館の場合は、**“北区や東京などの地域について書かれた資料”**について特化しています。

ちなみに、内田康夫(うちだやすお)著：小説「浅見光彦(あさみみつひこ)シリーズ」や清野(せいの)とおる著：漫画「東京都北区赤羽」も舞台が北区なので、大事な「地域資料」のひとつとして積極的に収集しています。

Q3:どんな地域資料が置いてあるの？

～「北区の部屋」では、北区に関する図書以外にも様々な地域資料を所蔵しています～

①古写真（約 30,000 点）

区内各所を撮影した古い写真や絵葉書を数多く所蔵。
懐かしい北区の姿を見ることが出来ます。

②古い地図（約 500 点）

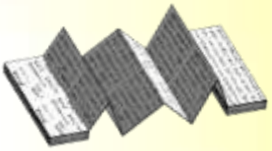
明治時代から最新まで。住宅地図は昭和 37 年以降のものが揃えてあります（欠年あり）。

③古文書（約 40,000 点）

区内の旧家から発見された古文書など。
一部の資料は複写本を作成し、閲覧できるようにしています。

④和装本（約 500 冊）

江戸時代に版行された版本を所蔵しています。（川崎文庫）



⑤その他

- 北区内企業の社史
- 北区内小中学校などの記念誌
- 北区アンバサダー（宣伝大使）の著作・CD
- 北区名誉区民著作・作品集
- 北区民著作コレクション
- 北区広報紙・広報 DVD
- 地域新聞・会報、など

※「北区の部屋」以外にも、書庫で保管されている地域資料も多くあります。
→ 古写真・古地図の現物は、備え付けのリストから見たい資料をご申請ください。
→ 古文書・和装本の現物を見たい方は、特別に閲覧申請ください。

Q4:「地域資料専門員」って何してる人？

日本近現代史研究家
黒川（くろかわ） 徳男（のりお） 地域資料専門員

日本近世史研究家
保垣（ほがき） 孝幸（たかゆき） 地域資料専門員

北区の歴史の専門家で、主に「北区の部屋」にて地域資料の収集・整理・活用・レファレンスなどを行っています。また、TV や雑誌・新聞へ地域資料（写真）の貸出、北区に関する企画展示や歴史講座や講演会なども行っています。

☆今月の展示 「昭和町・田端周辺鉄道ワールドの歴史と魅力」☆

▶期　間：10 月 27 日（金）～11 月 23 日（木・祝）

▶場　所：北区の部屋

秋は「鉄道のまち北区」が、にぎわうシーズンです。

ＪＲ尾久駅構内・尾久車両センターでは、11 月 11 日（土）「～JR 東日本発足30 周年記念 のってたのしい列車大集合～ 第 17 回 みんな集まれ！ ふれあい鉄道フェスティバル」が開催され、今年は、東北や甲信越の観光列車などが展示されます（北区観光ホームページ経由で、ＪＲ東日本のイベント記事を閲覧できます）。

その尾久駅が、位置するのが北区昭和町。駅周辺は、まさに鉄道ワールド。西側のＪＲ東日本尾久車両センターは、話題の TRAIN SUITE 四季島や、ツアー専用の寝台特急カシオペア、御召列車としても使用されるＥ655 系なごみ(和)といった豪華列車などの車両基地です。尾久駅から東へ歩けば、のんびりと走る都電荒川線の姿を見ることができます。そして、意外な鉄道スポットが、昭和町図書館です。鉄道コーナーが充実し、鉄道写真やジオラマも展示されています。

「北区の部屋」では、そんな昭和町や田端の鉄道ワールドの歴史や魅力について展示します。ぜひご覧ください。※写真は［1960 年代の田端機関区・長野（ながの） 隆（たかし） 氏提供］。

☆公開歴史講座「滝野川・帝国種苗殖産の昭和史」開催しました！☆

去る 10 月 21 日（土）に中央図書館 3 階ホールにて行われた公開歴史講座は、「北区の部屋」の黒川徳男地域資料専門員を講師に、滝野川の種苗業者が共同で立ち上げ、一時期は海外にまで販路を広げ一時代を築いた「帝国種苗殖産」の設立から廃業までにスポットを当てました。

北区の種苗業者の歴史と概要を導入に、帝国種苗殖産の繁栄と衰退を A3 判 10 頁に及ぶ資料とパワーポイントを駆使しながら丁寧に紐解いていきました。滝野川の企業の話だったせいか、今回の受講者は地元の方が多かったようです。地元の古い写真がスクリーンに映ると皆さん懐かしそうにご覧になっていました。

今回は台風の影響による暴風雨にも関わらず、多くの方にご参加いただくことができました。さらに参加できなかった方から、当日の資料が欲しいとの要望もありましたので、少し多めに資料もご用意しました。ご興味のある方は下記までご連絡ください。

▶北区立中央図書館図書係・地域資料担当／TEL：（5993）1125

今月は100号記念なので、こぼれ話も2話お届けします！

北区こぼれ話第100回
江戸北郊地域の大根生産
～一足早く市場へ出荷!～

かつて農業生産が盛んだった北区域の村々で最も重点的に栽培された作物が大根でした。江戸周辺で大根といえば、とりわけ練馬大根が有名ですが、現在の練馬区から板橋区、北区、荒川区にかけてのエリアは大根ベルト地帯とも呼ぶべき一大生産地帯で、農民たちは品種改良を重ねながら多様な種類の大根を栽培、出荷していました。

明治36年（1903）刊行の『北豊島郡農業志料』の「王子村」の項では、特に上十条・下十条で盛んだとして、九日大根・美濃大根・秋止り大根を栽培していたと記しています。九日大根とは、九月九日の「重陽の節句」に将軍家へ献上したことから名付けられたとも、夏の土用から九日目頃に播種したことに由来するともいわれる品種で、夏大根と秋大根の間に収穫できました。美濃大根とは、清水夏大根の系譜を引くと考えられる大根で、早生品種であると考えられます。清水夏大根は、板橋区清水町あたりで作り出され特産品となった夏大根で、北区域でもよく作られていました。秋止り大根とは練馬秋止大根のことで早生・晩生の2種類があります。このように見ていくと北区域の村々では、板橋区域同様、夏大根の生産が盛んだったことがうかがえます。そして尾久村や三河島村といった荒川区域で盛んだったのが二年子大根です。二年子大根は、10月中旬に播種し越年させて春に収穫する春大根で、三河島村で生産が盛んだった荒木田大根も二年子大根です。

このように見ていくと、同じ北郊地域の大根生産でも特徴があることに気付きます。古くから江戸近郊地域におけるブランド野菜であった練馬大根。これに対してお隣の板橋区域・北区域の村々では夏大根の生産が盛んになりました。当然、夏大根は秋遅くに収穫される練馬大根より早く収穫され市場に出回ります。『北豊島郡農業志料』では、「上十条一部ノ地ハ最モ早蒔ノ特色アリテ市場未ダ秋大根ノ声ナキ時ニ当リ早ク良品ヲ産出シ人目ヲ招ケリ」とあり、他に先駆けて作物を出荷させることで注目が集まっていたことが知られます。そのお隣の荒川区域は、もっと早く「夏大根が未だ出ざる前に収むる」春大根の生産が盛んだったのです。当然、その品種にあった土地の条件というのもありますが、他に先んじて市場へ出荷しようという意識がこうした地域的な特色に影響していたことは想像に難くありません。同じ大根ベルト地帯でも、細かくみていくと、それぞれの地域で特徴があるのです。

「えっ?それならばうちは春大根の前に市場に出荷できる大根を特産品にするって？!」それじゃあ季節は一周して、練馬大根と同じ時期になりますが･･･。　　【地域資料専門員　保垣孝幸】

北区図書館活動区民の会
地域資料部 会員募集!!

「北区図書館活動区民の会・地域資料部」では、図書館と協働で地域資料の充実を図るための活動を行っています。中央図書館で一緒に活動してみませんか？

＜主な活動内容＞

- ☑ 地域資料部会の定期開催（原則第2火曜日午後6時半～）
- ☑ 北区の歴史講演会の企画・運営（年2回）
- ☑ 「北区の歴史を学ぶ会」の開催（第4火曜日午後2～4時）
- ☑ 「北区図書館ナイトツアー」の開催（1月頃・小学生対象）
- ☑ 「北区の語り部」に聞く（口述記録）、北区に縁のある社史・団体史等の収集
- ☑ その他図書館活動への協力・参画

★詳しくは、「北区図書館活動区民の会」事務局まで TEL：5993-1125（中央図書館内）